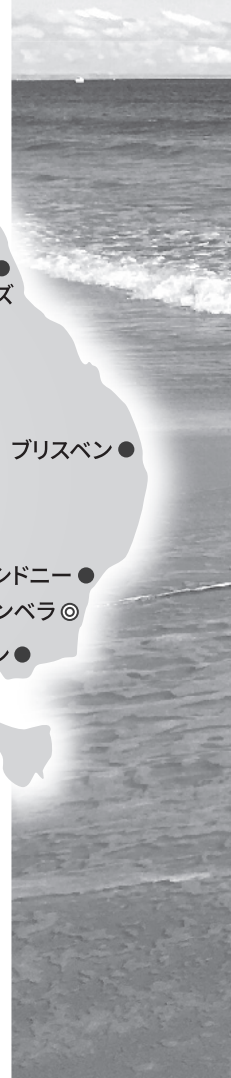




卒業記念コラム＊
法学部HP学生の声から

臆病者な私の 留学生活



あなたは周りを見て、考えて行動したり
発言したりできるから、もっと自分に自信
を持っていいわよ。今回はボランティア
だけど、もし雇うとなったらあなたを3人
雇いたいわ



石川千紘

法学部
4年

host mother

大学入学後、周りの友人が資格取得勉強やボランティア、部活動などそれぞれがやりたいことを見つけ打ち込んでいる一方で、私は大学生生活の4年間で何をしたいのか、決められずにいた。自分だけ置いていかれるような気持ちになり、不安と焦りで悩む日々。

そのような中、とにかく一步踏み出してみようと1年生の春休みに挑戦したカナダ・バンクーバーでの短期語学留学を終えて以後、「今度は長期留学をして、より多くの考え方や価値観に触れることで成長したい」という思いが強くなり、すぐにオーストラリア交換留学の準備を進めた。

この留学に対して、「法学部やる気応援奨学金・長期海外研修部門」

や「中央大学国外留学生奨学金」など中央大学から様々なサポートをしていただき、2018年2月、ついに私のオーストラリア・アデレード大学(中大海外協定校)での10カ月にわたる留学生活がスタートした。

「絶対に成長して帰国しよう」と意気込んでスタートした留学生活だったが、なかなか思い描いていたようにはいかなかった。

授業が始まって一番の困難は、「クラス内での存在感を高めること」であった。留学先の授業は、発言をしなければ存在が認められない環境であり、たとえ頭で真剣に考えていたとしても、その考えを伝えることができなければクラスに存在していないのと同じだとみなされた。

留学当初、英語力にも自信がなかった私は、なかなか発言ができず、グループプレゼンテーションでは、私が話し合いに参加する前にすでに発表内容の大半が決められていたり、ディスカッションでも意見を聞かれることもなくなったりと、日々悔しく感じていた。

そしてついには、積極的に授業に参加するどころか、「授業に行きたくない」という思いが日に日に強くなっていった。

自分の意見をはっきり 堂々と伝える

しかし、日本に帰りたいと考えることはなかった。それよりも、「このままでは日本に帰れない」という思いが強かった。



アデレード中心部からトラムで30分ほどのビーチにて

そこで、まずは履修していた授業の知識を増やすべく、担当教授や現地の友人に積極的に質問をした。そして、自分の意見を相手に伝えるためには、英語力の有無より、得た知識をもとに、論理的に自信を持って伝えることが大切だと考え、実践した。

自分の意見をはっきり、堂々と伝えると、相手も必ず真剣に答えてくれた。最初は私の提案を待たずにプレゼンテーションの準備を進めていたメンバーも、私の案を採用してくれるようになり、信頼関係を築くことができた。

自分が発言するようになってからは、授業がより面白くなり、特に一つの論題に対して、様々な角度から次々と意見が出るディスカッション

は非常に刺激的で学びの多い時間であった。

留学後半には、ファームステイ (Farm stay) と呼ばれる農家でのボランティアにも挑戦した。アプリコット(あんず)の収穫をしたり、子ヤギにミルクをあげたり、点検のためにバギーの後ろに乗って農園を走り回ったりと多くの貴重な経験をした。

ホストマザーとは、太平洋戦争の後、彼女が日本に対して抱いていた差別的な感情と、その感情がどう変化していったのか、という会話もした。

Farm stay最終日、彼女に言われた「あなたは周りを見て、考えて行動したり発言したりできるから、もっと自分に自信を持っていいわよ。今回はボランティアだけど、もし雇うと

なったらあなたを3人雇いたいわ」という言葉は、留学当初より少しは自分が成長したのではないかと思わせてくれた、忘れられない言葉になった。

自分に自信が持てない臆病な私だったが、留学を通して自らの意見を持ち、伝えることができるようになった。

1年生の頃はどのような大学生活になるか不安ばかりだった。しかし今、大学4年間を振り返ってみると、留学を通して多くの人々と出会い、学び、成長し、実りある時間を過ごしてきたと感じる。

悩んだり立ち止まったりした時間も含めて、非常に有意義な4年間だった。



法律家になる



天野円賀

法学部
4年

私は大学入学前の3月31日まで、高校の制服を着て「女子高校生」として過ごしていました。3月の最後の最後まで部活動を続け、高校生としての青春を謳歌していたせいか、4月から大学生になるという自覚もあまりなかったような気がします。でも、そのわずか2日後の4月2日には、新品のスーツを着て大学の入学式に参加していました。

入学してすぐ、法学部のガイダンスや法曹志望者のための課外講座の説明会など、様々なオリエンテーションに参加しました。

大学生になる、という実感は薄かったものの、私は入学後に何をするかを既に決めていました。大学での最初の目標は「炎の塔の中にある研究室に入る」ことでした。

中央大学は、これまで多くの法律家を輩出してきた歴史のある大学です。特に、2002年に多摩キャンパスに設けられた学生研究棟「炎の塔」という施設は、法律家になりたいと考える学生にとって特別な場所でした。

「炎の塔」に入ることができたら、平凡な自分でも司法試験突破の夢を叶えられるかもしれない。自分一人で勉強するのは難しくても、道筋を示してくれる人、一緒に目指す人が周りにいてくれたら頑張れるかもしれない。

そういった期待をもって、研究室の入室試験を受験していた学生が大勢いたように思います。もちろん、私も同じ思いを持った学生の一人でした。

研究室の入室試験は、それまでに受けたことのある試験とは全くテイストの違った試験でした。試験の形式は研究室によって様々でしたが、自分の中の全ての能力や素質を測られているような気持ちになりました。

また、なぜ法律家を目指したいのか、どのような法律家になりたいのかなど、強い意志と精神が必要であることも実感しました。だからこそ、当時の私にとって研究室に所属できるかできないかは、まるで自分の人生を左右されるような大きな出来事に感じられました。

私が後に所属することとなった瑞法会研究室の入室試験のことは今

でも本当によく覚えています。二次試験の後、試験で上手くいかなかった私は教室を出た後に大泣きしてしまいました。

それほど、研究室に入ることは私にとってとても真剣で、大切なことだったのだと思います。その時、一人の先輩が声を掛けてくださり、私が泣き止むまでずっとそばで話をしてくださいました。

金言アドバイス

その先輩は私にこのような言葉をかけてくださいました。

「今は目の前のことでいっぱいいっぱいだと思うし、研究室に入るかどうかはすごく大事だって考えちゃう気持ちすごく分かるよ。私もそうだった。でも、今この試験に受かるか受からないかなんて、これからのことは全然関係ないから！」

大学4年間、先輩のこの言葉が本当にその通りだなと思う場面が何度も何度もありました。

研究室に所属しなくても仲間をつかって自分のやり方で司法試験合格を目指す人、2、3年生から勉強を始めて法科大学院入試や司法試験予備試験を突破していく人など、



努力を積み重ねて目標を達成して
いく人をたくさん見かけました。

私は縁があって大学1年の春に
瑞法会研究室に入室することとなり
ましたが、それは本当に恵まれたこ
とで、有り難いことだったと思ってい
ます。この環境を与えてもらったか
らには、自分の納得のいくまで頑張
りたいという気持ちにもなりました。

「炎の塔」で過ごした4年間は決
して楽しいことだけではなく、つらく
なることや悲しくなることもたくさん
ありました。

人と学力を比べてしまったり、結
果や成績がすべてのように感じてし
まったり、目の前にある試験の壁が
あまりに高く「法律家になる」と
いう最終目標がぼやけてしまっ
たりすることもありました。

でも、その度に私は1年生の春
に先輩から聞いた言葉を思い出し
ていました。自分が自分のために何
を頑張るのか、そこをぶれさせな
いことが大切なのだと感じました。

4年間諦めずに勉強を続けるこ
とができたのは、中央大学で与えて
もらった環境、出会うことのできた
人たちすべてのおかげだと、心から
思っています。



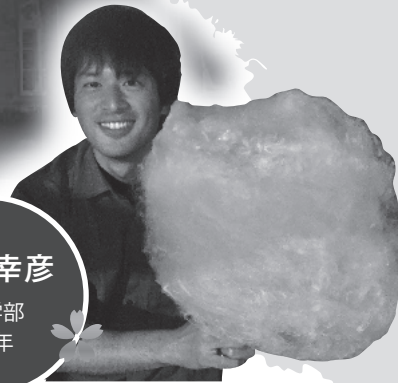


リヨン政治学院

在学中、 僕のトツプニュース

齋藤幸彦

法学部
4年



◎パリ

リヨン

モンペリエ

マルセイユ

僕の在学中のトツプニュースは3度のフランス留学です。

2年生の夏休みに2週間、2年生の春休みに2か月間、そして交換留学で3年生の後期から4年生の前期までの9か月間です。

今考えると、大学入学前になんとか第二外国語でフランス語を選択したことがきっかけだったと思います。フランス語を話せたらカッコいいなという気持ちもありました。

入学後はたまたまでしたが、フラ

ンス語を話せる国際法の教授のゼミに所属し、授業中、不意に教授がフランス語を話す場面に遭遇しました。単純にかっこいいと思いあがられました。

また、2年生からFLPという学部を超えた学びができるプログラムに所属し、国際協力のゼミに入りました。元JICA理事の客員教授のもとで興味があった国際協力について学びました。

世界で問題になっている社会課

題(貧困格差や環境問題など)にもともと問題意識を持っていたこと、フランス語をたまたま選択して憧れる教授に出会ったことなどが要因となり、フランスに留学し国際協力などについて学びたいと思い3年の後期から4年の前期までリヨン政治学院(中大海外協定校)に留学をすることを決めました。

初の海外、初の搭乗が フランス単身留学

最初の留学は自費で2年生の夏休みに南フランスのモンペリエという街の語学学校へ行きました。

それまで僕は海外に行ったことがないだけではなく、飛行機にさえ乗ったこともありませんでした。今思うと、初めての飛行機兼海外がフランスに一人で語学学校に通うという所業をよくこなしたなと思います。

帰りの飛行機に乗り遅れ涙を飲みながら一日パリ観光をし、空港泊して4万円払って次の日の飛行機に乗って帰国したのは今となってはいい思い出です。

3度目の留学は交換留学でリヨン政治学院に行きました。授業ではフランスやアジアの歴史や経済を中心に勉強しました。授業はすべてフランス語だったのでかなり大変でした。日本人とフランス人の友達にノートを借りて勉強していました。

授業以外でも9か月フランスにいと文化に触れる機会がたくさんありました。自由でラフなイメージがあるかもしれませんが、その通りです。

屋外のテラスでご飯を食べたがるし、夏は肌を焼きたがり、ピクニックが大好きです。全体的に自己主張が強い印象もあり、それが影響してかストライキやデモが多いような気がしました。

パリに遊びに行った時も帰りのTGV(日本でいう新幹線)がストライキで止まって急遽バスで帰ったりと、何度か被害に遭いました。

住宅補助も到着後すぐに申請しましたが、すべての事務処理が終了したのは帰国の2か月前でかなりマイペースに取り組みられました。

また、日本では電車の中で通話することはマナー違反だと認識されますが、フランスでは特にそういう雰囲気はありませんでした。自分の常識や固定概念のようなものを実感

した瞬間でした。

日本では当たり前なことが当たり前じゃないこともあるし、自分の主張をはっきり伝えないと不利益を被ることもあります。

留学して得られたことは、広い視野で物事を捉える能力と積極的に自分から何事も行動することだと思います。

留学を終えて、海外にも多くの友達ができ、人の考えに対しても前より寛容になったような気がします。

本当の在学中のトップニュースはフランスに留学したことではなく、自分で言うのは少し恥ずかしいですが、ものの見方や考え方が深まり、何事に対しても積極的に行動するといった人間的な成長を遂げることができたことだと思います。

大学生活はとても楽しく充実して過ごすことができました。関わったすべての人に感謝しています。ありがとうございました。



語学学校の仲間と記念撮影。左から3人目が筆者